

平成 26 事業年度 事業報告書

J-PARC 特定中性子線施設 登録施設利用促進機関
一般財団法人総合科学研究機構

一般財団法人総合科学研究機構（以下「CROSS」という）は、「特定先端大型研究施設の共用の促進に関する法律（平成 6 年法律第 78 号）」（以下「共用法」という。）第 8 条の規定に基づき、平成 26 年 4 月 1 日から特定中性子線施設（J-PARC MLF）の利用促進業務を行う登録施設利用促進機関（以下、「登録機関」という）として 1 年間「特定中性子線施設利用促進業務」を実施した。

1. 利用者選定業務

(1) 平成 26 年 8 月 21 日に第 9 回選定委員会を開催した。（第 20 回物質・生命科学研究施設利用委員会と合同開催）

選定委員の交代があり、赤井敏夫氏（(株) MCHC）が新しく委員に加わった。また横溝英明東海事業センター長が新しくオブザーバーとして加わった。

平成 26 年度下期（2014B 期）の利用研究課題審査の結果、トライアルユース課題の審査結果、共用法 12 条の規定による利用の申請、および平成 27 年度上期（2015A）共用ビームラインの課題公募、審査方針などについて説明のうえ意見を聴いた。

平成 27 年 1 月 27 日に第 10 回選定委員会を開催した。（第 21 回物質・生命科学研究施設利用委員会と合同開催）新井 MLF ディビジョン長から MLF の現状報告と総括が報告されたあと、平成 27 年度上期（2015A 期）の利用研究課題審査の結果、トライアルユースの審査結果、通年課題である元素戦略課題、プロジェクト課題、装置グループ課題、CROSS 開発課題、および平成 27 年度下期（2015B）共用ビームラインの課題公募、審査方針などについて説明のうえ意見を聴いた。

(2) 共用ビームラインにおける利用研究課題の 2014B 期（平成 26 年 10 月～平成 27 年 3 月）の課題募集を行い、第 7 回利用研究課題審査委員会において審査し、128 件の応募課題の中から 74 課題（内成果非公開 2 件、トライアルユース課題 7 件）を承認した。登録機関は選定委員会の意見を聴き、74 課題を選定した。

また、2015A 期（平成 27 年 4 月～平成 26 年 11 月）は新たに BL22（エネルギー分析型中性子イメージング装置：螺鈿）が加わり、7 本となった共用ビームラインの課題募集を行い、第 8 回利用研究課題審査委員会において審査し、118 件の応募課題の中から 75（内成果非公開 2 件、トライアルユース課題 6 件）課題を承認した。登録機関は、選定委員会の意見を聴き、75 件を選定した。

- (3) 平成 26 年 12 月 25 日～26 日に第 4 回開発課題審査委員会を、研究課題諮問委員会と合同開催し、平成 27 年度上期 (2015A) 以降の中性子線共用施設における CROSS 開発課題、装置グループ課題、およびプロジェクト課題の審査を行った。審査結果は第 8 回課題審査委員会 (平成 27 年 1 月 16 日) に報告し、第 10 回選定委員会 (平成 27 年 1 月 27 日) で審議し、纏めた。

2. 利用支援業務

(1) 情報支援関係

1) 共用ビームライン用利用者支援システム関係：以下の項目で作業した。

- ①2015 期から新規に共用ビームラインとなる BL22：エネルギー分析型中性子イメージング装置 (螺鈿) の利用ユーザー用として、解析端末の導入、及び CROSS 内サーバー室の拡張作業を行った。
- ②ユーザーズオフィス UO 関係の課題公募、選定、実施支援及び成果管理のシステムを J-PARC センターに協力して運用し、2014A 期以降の共用ビームラインにおける課題募集、審査、実施支援及び成果管理をシステム上で行った。また課題審査システムにおいて、採択通知書の内容が MLF と沿うよう書式変更の改修を行った。
- ③CROSS 内部のネットワーク構成を見直し、WEB サーバーおよびメーリングリストサーバーを外部設置することにより、安定運転、セキュリティの向上を図った。
- ④セキュリティポリシーの明文化を行い、情報管理における管理体制の整備を行った。

2) 情報提供関係：

- ①昨年度整備した、J-PARC MLF と協力し課題申請数、採択結果、実施状況などの情報を一元管理するためのデータベースの運用を行った。
- ②国内、国外を問わず、中性子に関する研究会、ワークショップなどのイベントの開催時期を把握するためのイベントカレンダー (WEB) の運営を行った。
- ③技術情報、利用情報、利用成果情報の提供：CROSS 東海事業センター主催のワークショップ「CROSSroads of Users and J-PARC」シリーズ (11 回～14 回) の報告冊子を発行し、J-PARC の利用による研究成果などを広くアピールした。
- ④国内で開催された学会に 8 件のブース出展を行い、中性子利用があまり浸透していない研究分野への広報活動を行い、新規ユーザーの開拓活動を行った。

(2) 技術支援関係

1) 実験手法の開発：

- ①登録機関の利用支援者の資質向上等を図るために、MLF のスタッフと連携して以下の活動を行った。また、今年度は、共用 BL から論文が 41 報発表された。
 - ・ BL01(四季)グループ

新型 Fermi チョッパー (Magic チョッパー) の開発として、実機による試験測定を行った。数値シミュレーションを引き続き行いスリットパッケージの最適化を図る。ラジアルコリメーターの透過率を計算し、実測値と比較することで、最適なラジアルコリメーターと試料の条件の関係を得ることに成功した。高温スティックおよび低温スティックの整備を行った。また、触媒用セルの開発、単結晶試料マウント方法の検討を進めた。これらを活用して実験課題の共用実験、利用者技術支援を行った。BL01からは高温超伝導体におけるスピン・格子ダイナミクス、量子スピン系におけるダイナミクス等の研究において成果が生み出された。

・BL02(DNA)グループ

CROSS 開発課題「BL02-DNA 用特殊試料環境装置の開発」で、気体導入システムと液圧印加システムの開発を行った。BL01-BL02 共通予備クライオスタットの整備、試料マスクとして、Cd マスク代替のための BN、B4C マスクの設計・評価、複数データの処理ソフトウェアの作成、エネルギー原点・強度絶対値補正用ソフトウェアの作成を行った。また、高速チョッパーを利用した回折実験環境の整備、TrigNet を利用した高速チョッパー情報取得システムの整備を行った。これらを活用して実験課題の共用実験、利用者技術支援を行った。BL02からは燃料電池膜、多孔体中の水のダイナミクス等の研究において成果が生み出された。

・BL11(PLANET)グループ

高圧装置「圧姫」用 6-6 式高温高圧セルによる圧力・温度の校正曲線作成と高温高圧セルの開発、低温高圧セル (水戸セル) の開発、吸収補正プログラムの作成、AE 信号測定システムの設計と予備試験、中性子実験用ダイヤモンドアンビルセルの設計、ユーザー実験準備室 I の環境整備を行った。これらを活用して実験課題の共用実験と利用者技術支援を行った。BL11からは鉄中の水素の挙動等の研究において成果が生み出された。

・BL15(大観)グループ

超小角検出器の導入と調整、集光・偏極デバイスの導入、4K 冷凍機の試料回転機構の製作、偏極実験用ガイドコイルの製作、スピンプリッパーの改良、10T 超伝導磁石の熱スイッチ改良、ソフトウェア (空蟬) によるデータリダクションソフトウェアの実用化を行った。これらを活用して実験課題の共用実験と利用者技術支援を行った。BL15からはカイラル磁性体の磁気構造、イオン液体中の分子挙動等の研究において成果が生み出された。

・BL17(写楽)グループ

試料雰囲気セル、空芯電磁石用 4K 冷凍機真空槽の開発、各種試料ホルダー (小型試料用、電磁石縦配置用等) の開発、薄膜試料の作製 (Reference Layer 実験試料およびコミッションング試料) と提供、2次元検出器 MWPC の設置・処理ソフトウェアの製作・実用化試験、実験安定化のためのデバイス制御計算機の構築、0次元反射

率算出プログラムの開発、空芯電磁石利用環境整備、各種計算機ソフトウェアの開発(新 DAQ、デバイス制御パネル、2次元表示パネル)、アナライザー用真空チャンバー導入と環境整備を行った。これらを活用して実験課題の共用実験と利用者技術支援を行った。BL17からは磁性多層膜、偏極中性子フィルターの実用化等の研究において成果が生み出された。

• BL18(千手)グループ

複数特殊試料環境の整備の一環として、定常的な測定環境整備を行うとともに、ピストンシリンダーセルを用いた高圧・低温測定技術開発、TrigNET DAQ ミドルウェアの導入による時分割測定の技術開発を進めた。また、新たな測定・解析手法の開発として、マルチクリスタルを用いた測定による BL18 の最適かつ有効な測定方法を模索するとともに解析技術の確立のための評価に着手した。これらを活用して実験課題の共用実験と利用者技術支援を行った。BL18からはプロトン伝導体、希土類磁性体等の研究において成果が生み出された。

• BL22(螺鈿)グループ

装置コミッショニングとして、Andor カメラ型検出器(6Li および 10B タイプのシンチレータ使用)の性能評価、GEM 型検出器の試験、パルス幅測定、コリメーターの性能評価を行った。また、ベアリングの CT 測定や熱交換器を想定したモデル試料の中性子ラジオグラフィ測定を行い、中性子ラジオグラフィ測定で課題となる定量性を評価する上での重要な指針を得た。さらに、金属材料の内部状態観測を目的として、炭素鋼のブラッグエッジイメージング法による検証実験を行った。

• BL 共通グループ

共用実験における電気、機械、化学、放射線、計算環境等の技術支援と利用技術支援を行った。データ解析・可視化ソフトウェアの開発・整備、試料環境機器の開発・整備、偏極デバイスの実用化開発・試験、実験準備室の整備を進めた。また、試料管理支援、化学安全や機械安全審査を行った。消耗品管理、工作支援を行った。

• ユーザー実験準備室

より安全で使い易いユーザー実験準備室の整備のために、運営体制の見直し、利用手引きや利用申請様式の改訂等を行った。

②利用支援情報の発表と情報収集のために研究者を国際会議に以下の通り派遣した。

開催場所等	会議日程	会議名
フランス (Autrans)	平成 26 年 5 月 11 日(日) ～5 月 16 日 (金)	QENS/WINS 2014/参加者 1 名
中国 (上海)	平成 26 年 5 月 18 日(日) ～5 月 25 日 (日)	Seminar on in-situ welding using x-ray diffraction 学術セミナー参加/参加者 1 名
スイス	平成 26 年 6 月 1 日 (日)	第 13 回 $\mu\mu$ 土国際会議参加、および

(ゲリンデルシュタット) 英国 (ロンドン)	～6月6日(土)	Cryogenic社での超伝導磁石の調査 ／参加者1名(科研費)
ドイツ (ユーリッヒ)	平成26年6月2日(月) ～6月4日(木)	International Workshop on Position Sensitive neutron Detectors／参加者1名
メキシコ (カンクン)	平成26年6月9日(月) ～6月12日(木)	2014 EMN (Energy Material Nanotechnology) Summer Meeting ／参加者1名
フランス (ガルノーブル)	平成26年7月7日(月) ～7月11日(金)	International Conference on Strongly Correlated Electron System(SCES)2014 ／参加者1名
イギリス (リーズ)	平成26年7月28日(月) ～8月1日(金)	Six International on Optical, Optoelectronic and Photonic materials and Applications ／参加者1名(科研費)
アルゼンチン (ブエノスアイレス)	平成26年8月6日(水) ～8月13日(水)	第27回低温物理国際会議への参加(27th International Conference on Low Temperature Physics)／参加者1名
カナダ (モントリオール)	平成26年8月5日(火) ～8月12日(火)	第23回国際結晶学会(International Union of Crystallography XXII Congress and General Assembly (IUCr2014)) ／参加者2名(内、科研費1名)
フランス (リヨン)	平成26年9月7日(日) ～9月12日(金)	EHPRG2014(52nd European High Pressure Research Group International Meeting) ／参加者1名(科研費)
オーストラリア (シドニー)	平成26年9月15日(月) ～9月19日(金)	PNCMI'2014 (10th International Workshop on Polarized Neutrons in Condensed Matter Investigations)／参加者2名
イギリス (オックスフォード)	平成26年10月12日(日) ～10月16日(木)	The 8th International Workshop on Sample Environment at Neutron Scattering Facility ／参加者1名

③海外施設で実験を実施し、その成果を利用支援に活用するために研究者を海外施設へ以下の通り派遣した。

施設名(国名)	日程	実験名
Korea Atomic Energy Research Institute (KAERI)	平成26年6月12日(木) ～6月16日(月)	HANARO、KAERIでの中性子 実験／1名

(韓国)		
ポールシェラー研究所 (スイス)	平成 26 年 9 月 17 日 (水) ～9 月 25 日 (木)	ポールシェラー研究所 FOCUS での中性子散乱実験／1 名
Institute Laue-Langevin (ILL) (フランス)	平成 26 年 12 月 8 日 (月) ～12 月 19 日 (金)	Institute Laue-Langevin (ILL) ／1 名
オークリッジ国立研究所 (アメリカ)	平成 26 年 10 月 6 日 (月) ～10 月 11 日 (土)	HB1 での中性子散乱実験／1 名

2) 重点利用制度

重点利用制度として、トライアルユース課題と元素戦略課題の募集を 2012B 期から開始しており、2014 年度は共用ビームラインに対して、以下の通り応募があった。

	トライアルユース 課題	元素戦略課題
2014A	4	2
2014B	7	-

ただし、元素戦略課題は通年課題のため、2014B 期に募集をしていない。

また、トライアルユース制度の宣伝のために企業セミナーや研究会の開催、展示ブースの出展などを行った。

3) 連携利用制度

2013A 期から、SPring-8 と J-PARC MLF の共用ビームラインを同時に、且つ相補的に利用する課題の募集を開始し、さらにこの制度を発展させ MLF と、SPring-8 を含む量子ビーム施設、京コンピューターと連携して利用する「連携利用」課題の募集を 2014A 期から開始した。これは連携施設の効率的・効果的利用を図り、利用研究成果の更なる質的向上および量的拡大を目的としており、共用ビームラインに対して 2014A 期 8 件、2014B 期に 10 件の応募があった。

4) 実験支援：

共用ビームライン (BL) で、下記の表の件数の課題が採択され各採択課題の利用支援 (実験相談、試料および機器の設置、ビーム実験、データ解析および検討) を行った。

表. 採択課題件数

BL	BL01	BL02	BL11	BL15	BL17	BL18
2014A	14(1)	11(1)	11	18(2)	14	7
2014B	13(1)	13(1)	9(1)	17(2)	12(1)	10(1)
通年課題	5	5	1	9	2	6
計	32	29	21	44	28	23

2014A、2014Bの半期課題には、一般課題（公開、非公開）、トライアルユースを含む。（ ）内の数字はトライアルユース課題件数。また、通年課題は、元素戦略、装置グループ課題、プロジェクト課題、開発課題を含む。

(3) その他の支援関係

1) セミナー、ワークショップ、研究会等の開催：

①ブース出展：国内で開催される学会などでJ-PARC MLF と協力して展示ブースを出展し、利用者拡大に向けた10件の活動を以下の通り行った。

- ・第63回高分子学会年次大会（5/28～30 名古屋国際会議場。来場者約80名）
- ・第38回 日本磁気学会 学術講演会（9/2～5 慶応大学日吉キャンパス。来場者18名）
- ・日本鉱物科学会2014 年会（9/17～19 熊本大学。来場者18名）
- ・日本熱測定学会 第50回記念熱測定討論会展示（9/28-30 大阪大学豊中キャンパス。来場者11名）
- ・第4回CSJ化学フェスタ2014（10/14-16 タワーホール船堀。来場者99名）
- ・Polymer Networks Group & Gel Symposium 2014（11/10～14 東京大学。来場者11名）
- ・無機マテリアル学会 第129回講演会（11/20 アバンセホール（佐賀））
- ・第55回 高圧討論会（11/22～24 徳島大学。来場者31名）
- ・日本中性子科学会 第14回 年会（12/12～13 かでる2・7。来場者10名）
- ・日本粘土学会 平成27年度第2回評議員会（1/24 早稲田大学）

②企業セミナーの開催：中性子線施設(J-PARC)の紹介と企業の研究開発への適用の可能性に関する意見交換およびトライアルユース制度の紹介を目的として8件の企業セミナー等を開催した。

- ・企業セミナー 7件
 （技術研究組合FC-Cubic(5/9)、光学機器メーカー(5/21)、自動車メーカー 熱解析研究会(9/9)、化学メーカー(9/11)、製薬メーカー(10/7)、建材メーカー(12/12)、化学・医薬品メーカー(2/4)）
- ・放射光と中性子の産業応用に関するセミナー in 博多（2/20、福岡）

③ワークショップシリーズ「CROSSroads of Users and J-PARC」の開催：4件

- ・第11回「機能する界面、反応する表面 (II)」(8/18～19、東海村) / 62名
- ・第12回「不均一系における構造と機能」(9/16～17、東海村) / 42名
- ・第13回「強相関電子系の物理」(12/2～3、東海村) / 39名
- ・第14回「スピン系とフラストレーション」(2/3～4、東海村) / 36名

④JASRI、J-PARC、中性子産業利用推進協議会等との共催、協賛による研究会の開催：21件

- ・第14回蛋白質科学会年会 (ランチョンセミナー) (6/27、神奈川) / 60名
- ・平成26年度物質科学研究会 (7/29、東京) / 39名
- ・第11回 SPring-8 産業利用報告会 (9/4～5、兵庫) / 269名
- ・平成26年度第1回生物構造学研究会 (10/3、東京) / 56名
- ・平成26年度金属組織研究会 (10/8、東京) / 65名
- ・茨城県中性子利用促進研究会 平成26年度磁石材料分科会 (10/23、東京) / 57名
- ・平成26年度第1回残留ひずみ・応力解析研究会 (10/28、大阪) / 35名
- ・平成26年度薄膜・界面研究会 (11/6、大阪) / 22名
- ・平成26年度非破壊検査・可視化・分析技術研究会 (11/25、大阪) / 42名
- ・SPring-8/SACLA コンファレンス 2014 ～進化する光が拓く科学技術～ (12/1、東京) / 180名
- ・平成26年度電池材料研究会 (12/2、東京) / 70名
- ・平成26年度中性子実験技術基礎講習会 (レベル1講習会) (12/3、東京) / 33名
- ・平成26年度磁性材料研究会 (12/25、東京) / 29名
- ・日本磁気学会 第200回研究会 / 第51回化合物新磁性材料専門研究会 磁性材料の作製と評価手法 ～ 大型実験施設を用いた材料評価 ～ (1/13～14、東海村) / 23名
- ・平成26年度有機・高分子材料中性子構造解析研究会 (2/5、東京) / 25名
- ・放射光と中性子の産業応用に関するセミナー in 博多 (2/20、福岡) / 53名
- ・第6回中性子小角散乱解析法研究会 ～金属材料への適用に向けた取り組み～ (3/2、東京) / 40名
- ・平成26年度ソフトマター中性子散乱研究会 (3/12、東京) / 43名
- ・第3回物構研サイエンスフェスタ・第6回 MLF シンポジウム・第32回 PF シンポジウム (3/17～18、茨城) / 570名
- ・平成26年度第2回生物構造学研究会 (3/26、東京) / 34名
- ・平成26年度 Z-Code 講習会 (3/30～31、東京) / 56名

2) 国内学会、研究機関への働きかけ

中性子利用実績の少ない学会・研究機関の研究者・企画担当者との意見交換を行い新規利用者の獲得を行った。

- ・信州大学エキゾチックナノカーボン研究拠点 (5/2、2014B 期トライアルユース申請)
- ・物質・材料研究機構 (6/5、2015A 期共同申請)
- ・福岡大学 (8/7、2015A 期共同申請)
- ・北海道大学触媒化学研究センター (8/21、2015A 期トライアルユース申請)
- ・食品総合研究所 (10/10)

3) 国際会議、成果報告会などの開催：

①国際会議、成果報告会、スクール等の共催：7 件

- ・ The 2nd International Symposium on Science at J-PARC (7/12～15、茨城)
- ・ New Opportunities for Better User Group Software (NOBUGS 2014) (9/24～26、茨城)
- ・ International Collaboration on Advanced Neutron Sources (ICANS XXI) (9/29～10/3、茨城)
- ・ 平成 25 年度 茨城県ビームライン・CROSS トライアルユース成果報告会 (10/22、東京)
- ・ 第 2 回 MLF School (12/16～19、東海村)
- ・ 第 14 回 日韓中性子科学研究会 (The 14th Korea-Japan Meeting on Neutron Science) (1/7～9、東海村)
- ・ 物構研サイエンスフェスタ 2014 (第 6 回 MLF シンポジウム、第 32 回 PF シンポジウム) (3/17～18、茨城)

②国際的な情報発信

- ・ NMI3 (Integrated Infrastructure Initiative for Neutron Scattering and Muon Spectroscopy) が中性子・ミュオンに関する情報を世界的に発信している Web サイト” Neutronsources.org”に公募情報を掲載。また J-PARC と協力して今年度開催された「The 2nd International Symposium on Science at J-PARC」の開催報告を掲載。

4) ユーザーズオフィス関係

- ①J-PARC センターが整備している課題管理システム (申請システム、審査システム、成果管理システム) に対し、CROSS 対応のための改修を実施した。
- ②2014 年度課題の実施状況などを一元的に管理するデータベースを運用し、実施報告書等の必要書類の提出状況管理や、それに基づく利用者へのアナウンスなどを実施した。
- ③共用ビームライン利用者に対する、貸与物品などの整備を行い、IQBRC 棟における

利用者の受入れを行った。

- ④実験や国際会議などで来日する外国人の受入れ手続きなど、海外利用者の支援を行った。

3. J-PARC センター等との連携協力

平成 23 年 4 月 1 日付けで、JAEA 理事長、KEK 機構長及び CROSS 理事長との間で連携協力協定が締結され、J-PARC センター長と CROSS 東海事業センター長を共同議長として連携協力会議を開催することとされた。平成 26 年度においても、前年度同様に連携協力会議を頂点とする協力体制において、実務的な協力を円滑に行うため、利用者窓口をユーザーズオフィスに一本化するとともに実務者連携会議および利用促進合同会議等の活動を行った。

(1) 連携協力会議

1) 第 8 回連携協力会議：平成 26 年 7 月 4 日（金）に開催した。主要議題は、

- ①連携協力会議委員の交代について
- ②連携協力会議のあり方、MLF の状況について
- ③平成 26 年度実施計画について
- ④J-PARC ユーザーの状況および MLF の利用料金について
- ⑤研究課題選定に係る職員の募集について
- ⑥次期 J-PARC センター長の選考について

(2) 利用促進合同会議

平成 23 年度より CROSS が登録機関として中性子線共用施設の共用ビームラインを利用する一般課題を審査することとなったことから、従来の J-PARC センターにおける MLF 施設利用委員会の下、審査部会・分科会による審査体制に合わせて、CROSS 側は選定委員会の下、審査委員会・分科会による審査を行うこととし、両者の調整のために「利用促進合同会議」を設置することとされた。平成 26 年度も、本会議を年 2 回の課題公募に合わせて適宜開催した。

(3) 実務者連携会議

平成 23 年度より CROSS が登録機関として中性子線共用施設の共用ビームラインを利用する一般課題利用者を J-PARC センターに代わり支援することとなったことから、共用ビームラインの運転・保守を担当する JAEA 側の担当者と利用者支援を担当する CROSS 側担当者との間で「実務者連携会議」を開催することとされた。平成 26 年度も、利用研究課題受入前の諸作業を行うに当たり、本会議を適宜開催し効率よく効果的に作業を進めた。

(4) その他

J-PARC センターの担当者と協力し以下の作業を実施。

- ・ MLF アニュアルレポート 2013 の作成
- ・ 国際会議「The 2nd International Symposium on Science at J-PARC」「NOBUGS 2014」「ICANS XXI」、「The 14th Korea-Japan Meeting on Neutron Science」や「第 2 回 MLF スクール」の開催、運営。

4. JASRI、RIST、CROSS の登録施設利用促進機関の連携

特定中性子線施設「J-PARC」、特定放射光施設「SPring-8 および SACLA」、および特定高速電子計算機施設「京」のそれぞれの登録機関である CROSS、高輝度光科学研究センター JASRI、高度情報科学技術研究機構 RIST の 3 機関は、これらの施設の横断的利活用による高度な研究成果の創出と、より効率的・効果的な業務実施のため、平成 24 年 6 月に協力協定を締結した。

協力の一環として、平成 25 年度から J-PARC MLF（共用ビームライン）と SPring-8 との両施設を相補的に利用することを前提とした課題の募集を試行的に開始し、平成 26 年度からは京コンピューターを加え、施設を連携的に利用することを前提とした課題の募集を開始した。またこの連携的に利用する課題は、上記 3 つの大型研究施設だけでなく、その他の量子ビーム施設を利用する場合でも適用するようにした。

平成 26 年度、共用ビームラインにおいて 18 件の課題申請があり、12 件が採択された。また連携利用のユーザー拡大を目的として以下の会議、研究会を開催した。

- ・ 第 1 回「京」と大型実験施設との連携利用シンポジウム（9/2、東京）
- ・ 大型施設登録機関 第 3 回連携協力会議（CROSS, JASRI, RIST）（12/2、東京）
- ・ J-PARC, SPring-8, 京 計算科学勉強会（2/21、大阪）

以上